

令和2年1月吉日

各 位 様

一般社団法人 熊本県メンテナンス協会  
会長 深水 弘一

### 技術講演会 開催のご案内

新春の候 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当協会は交通安全施設・橋梁の修繕、安全性や長寿命化対策の工事を手掛ける施工業者の協会です。

さて、この度下記によりコンクリート構造物に関する技術講演会を開催することと致しました。日頃取り扱うコンクリートの品質と耐久性向上についての講演会で、皆様の業務に必ずやお役に立つものと思いご案内いたします。ご多忙中とは存じますが、各位様のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

#### 記

1. 名 称 新時代のコンクリート ～品質と耐久性へのこだわり～
2. 日 時 令和2年1月29日(水) 13:15～16:30 (受付 12:30～)
3. 場 所 グランメッセ熊本2階 コンベンションホール
4. 演 目 第一部  
「山口県におけるコンクリート構造物品質確保の取り組み」  
山口県土木建築部技術管理課 池村 剛宜 様  
  
第二部  
「混和剤が変えるコンクリートの未来」  
国際企業株式会社 広島営業所 筒井 達也 様  
  
第三部  
「県南広域本部における品質確保の取り組み」  
熊本県県南広域本部 土木部技術管理課長 山本 茂雄 様
5. 主 催 一般社団法人 熊本県メンテナンス協会
6. CPDS (一社)全国土木施工管理技士会・連合会認定 講演会 4 unit

※ 勝手ながら、会場の都合上1月21日(水)までにお申し込み頂きますようお願い申し上げます。

令和元年度 技術講演会

# 新時代のコンクリート ～品質と耐久性へのこだわり～

(一社)全国土木施工管理技士会・連合会認定講演会 (CPDS)

## 2020.1.29 水

### 13:15▶16:00

12:30より入場いただけます

第1部

13:30▶14:40

#### 山口県におけるコンクリート構造物 品質確保の取り組み

山口県土木建築部技術管理課 **池村 剛宜様**

第2部

14:50▶16:00

#### 混和剤が変えるコンクリートの未来

国際企業株式会社 広島営業所 **筒井 達也様**

会場

グランメッセ熊本2階  
コンベンションホール

## 入場無料

定員 **250名**

【お申し込み方法】  
下記参加申込書にご記入の上、  
FAXにてお申し込みください。

主催／(一社)熊本県メンテナンス協会

### 「技術講演会」参加申込書 Fax (096) 288-9761

代表者名	フリガナ お名前	年齢	性別 男性・女性	お連れの方のお名前	フリガナ	年齢	性別 男性・女性
	企業・団体名	職業( )			フリガナ	年齢	性別 男性・女性
	ご住所 〒	電話番号( )			フリガナ	年齢	性別 男性・女性
	メールアドレス				フリガナ	年齢	性別 男性・女性
					フリガナ	年齢	性別 男性・女性
					フリガナ	年齢	性別 男性・女性

メールでもお申込できます。renraku@bouankyo.com

(一社)熊本県メンテナンス協会 事務局 〒862-0915 熊本市東区山ノ神2丁目13-1  
TEL/096-331-7112 担当/農山

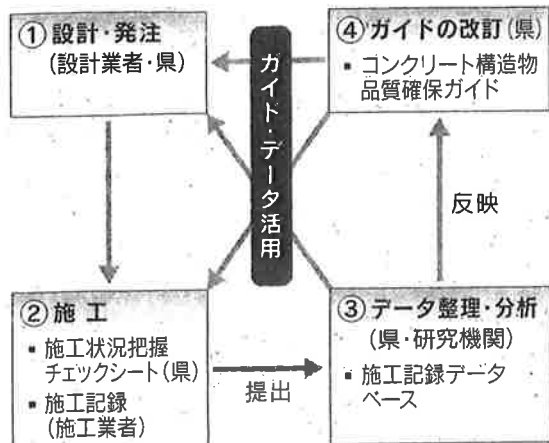
11/25

# コンクリート建設 点検シート使い施工 山口方式 全国に浸透

## 品質向上に評価 県も導入を支援

橋脚や橋台など鉄筋コンクリート構造物の耐久性を高めるため、山口県の産官学が共同で開発した品質確保手法を採用する動きが全国で広がっている。国土交通省東北地方整備局が東日本大震災後の復興道路工事で採用したのをはじめ、群馬県が2019年度から本格的に導入。東北以外の地方整備局や新潟県、熊本県なども導入に向けて一部工事で試行している。

### 山口県のコンクリート構造物品質確保システム



山口県では県や徳山工業高等専門学校が中心となり、施工の際に守るべき基本事項をチェックするシート(施工状況把握チェックシート)を開発。問題発生時に原因究明の手掛かりになる施工記録のデータベースを07年から整備・公開している。当初はひび割れを減らすのが目的だったが、発注者と施工業者の技術的対話や産官学の協働を促し、コンクリートの品質向上につながる土木学



山口県の研修モデルコースの「模範的構造物」

会からも評価された。

### 東北復興で採用

東日本大震災後、大学の研究者らが東北地方整備局に復興道路で山口方式の導入を要請。従来通りの方法で道路を急造すれば、将来に禍根を残すと懸念したからだ。同整備局は13年度からチェックシートと「目視評価」を採用し始めた。後者は型枠を外したコンクリートの表面をその場で評価し、すぐに改善につな

る仕組み。採用の背景には、凍結防止剤の散布や凍結融解の繰り返しなど寒冷地の厳しい環境下、既存コンクリート構造物が早期に劣化しているとの認識の広がりがあった。群馬県は産官学の研究会や県職員の山口県への派遣、講習会など数年の準備を経て、15年度から県発注工事で山口方式を参考にした品質確保策を試行。その結果も踏まえ、県独自のチェックシートや施工記録データベースの活用を盛り込んだコンクリート構造物のガイドラインを策定し、19年度から適用を始めた。一部の工事で試行する動きも広がっている。東北以外の全国の地方整備局は17年度からチェックシートや目視評価を活用した品質確保策を一部工事で試行。18年度は直轄工事21件で実施した(中国地方整備局では2件)。新潟県も県発注工事でチェックシートを試行し、産官学の研究会を中心に県独自の「コンクリート品質確保システム」の構築を目指している。熊本県は熊本地震による被害が少なかった県南地域で先行的に取り組

んでいる。施工業者にとっては負担になるため、業者と合意できた工事に限って試行しているが、同県の県南広域本部は「コンクリートの品質が明らかに向上しており、現場のモチベーションも上がっている」(技術管理課)と評価している。一方、自治体の腰が重く、民間が先行して取り組んでいる地域もある。高知県では建設業界の各種団体が山口県を視察したり、山口県関係者を招いた研修会などを重ね、一部の業者は自主的にチェックシートや目視評価を採り入れている。意見交換で改善 山口県は全国各地の取り組みを支援するため、講師派遣や視察依頼の要請を積極的に行き受け、山口方式の導入前後のコンクリート構造物の出来を比較できる研修モデルコースも設定。県と建設関係団体が共同で開催する技術講習会には毎年、県外から数十人が参加している。県では「他の地域との意見交換は山口方式をさらに改善するきっかけになる」(土木建築部技術管理課)とみている。(谷川健三)